青森県総合社会教育センター主催事業報告

五所川原工業高校　ワークショップ

１　ワークショップに係る学校の要望等

企画のカテゴリー	□ 大学進学 ■ 将来の進路 □ 多様な価値観 □ コミュニケーション □ その他
実施する目的	大学生との対話を通して、志望する学部・学科を具体的に決定できるように視野を広げさせたい。
ワークショップ終了後の目指す姿	大学で学ぶ学生の姿勢を受け止め、自分の目標を再確認し、志望する大学・学部・学科を具体的に絞り込んでいくことができる。

２　要望を受けた上でのワークショップのテーマ

テーマ「　Tokimeki　」

このワークショップのカテゴリーは、「将来の進路」です。実施する目的は「大学生との対話を通して、志望する学部・学科を具体的に決定できるように視野を広げさせたい。」であることからテーマを「Tokimeki」にしました。このテーマにした理由は以下の通りです。

高校生が進路について考えるとき、「こうであるべき」「将来のためにとりあえず」「堅苦しいもの」というイメージが多いと思います。そうなってしまうと、たくさんある進路の幅も狭まってしまうのではと考え、高校生の中にある「Tokimeki」から掘り下げて進路について考えていこうという企画にしました。

今回扱う「Tokimeki」の定義としては、“少しでも心が動かされたもの”です。例えば「好きなもの・こと・人」「なんか気になる」「面白そう」「かっこいい」などちょっとしたことです。

「Tokimeki」を基盤にしてワークショップを進めていき、最後に詳しい進路を決定し、目標を立ててもらいます。ですが全員が最終的な進路に繋がらずとも、進路に迷ったとき、将来別の道に進もうと考えたとき、本当にやりたいことは何かを考えたときなど、人生のどこかで手助けになればいいなと思います。

３　参加生徒数

第２学年　６６名

４　報告

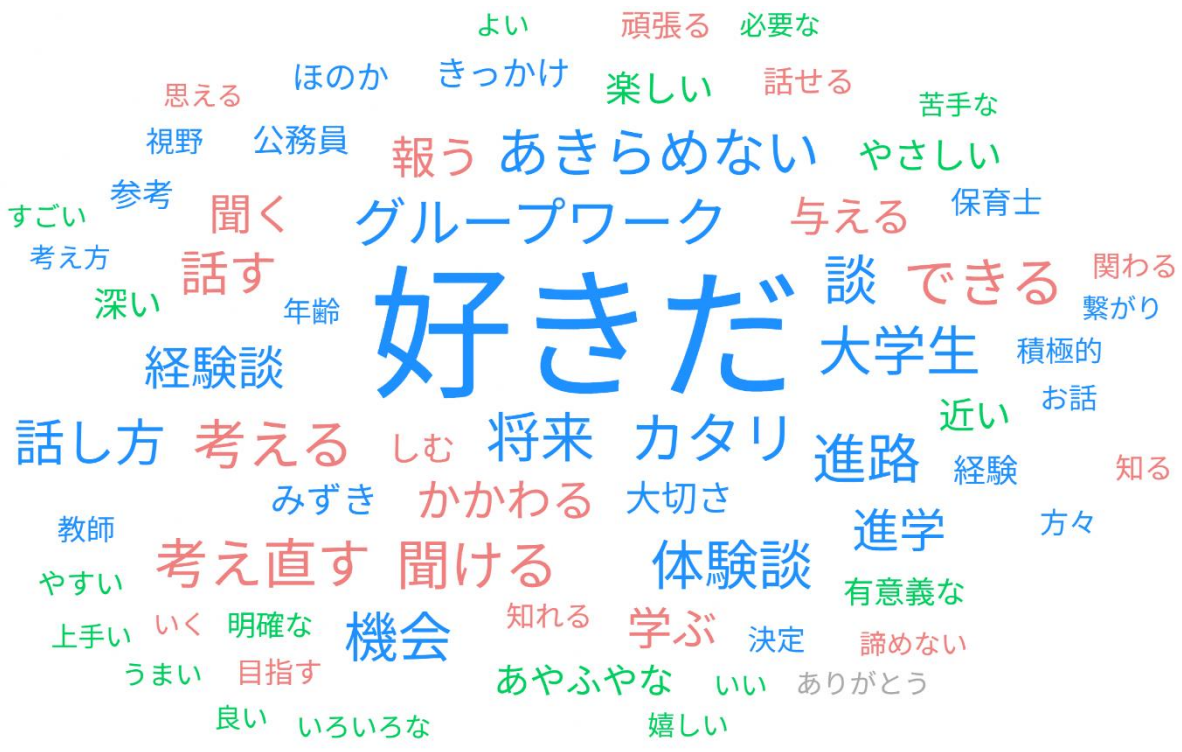
（１）参加生徒へのアンケート結果（有効回答数４５名、有効回答率６８．１％）

ア　有意義度調査

１　ワークショップは有意義でしたか？	３．８０
２　ワークショップでの活動において「今の自分・これまでの自分」を見つめなおす機会となりましたか？	３．７３
３　ワークショップでの活動は「将来の自分・進路選択」について考える機会となりましたか？	３．６７

※アンケートはすべて４件法で実施。数字が多いほうが高評価。

イ　自由記述によるテキストマイニング分析



大学生の話やグループワークを通じて、年齢の近い先輩の体験談や励ましにより進路や志望が明確になり、迷っていた職業と自分の好きなことのつながりが見えたりその場で家族と相談して進路を決められるなど有意義な学びが得られたと多くの参加者が述べている。そして大学生の工夫された語り口や物語形式の発表が聞きやすく具体的な努力の方向や人との関わり方が示されて励みになったので、今後何を頑張ればよいかが分かり前向きに進路を考えるきっかけになったと評価されている。

（２）学校へのアンケート結果

１　ワークショップの満足度は？	4
２　学校としての実施目的の達成度は？	4
３　生徒がワークショップへ参加している様子から、進路や目標を明確に意識できる様子が見られたか？	5

※アンケートは５件法で実施。数字が多いほうが高評価。